

身延線は総延長 88km 余りの、比較的短い線区ですが、特急列車も健在です。それが「特急ふじかわ号」です。かつては急行列車でしたが、今は堂々特急に格上げになっています。



富士-甲府間では運行距離が短いことと、静岡地区と甲府地区の連絡特急の役割もあり、始発駅は静岡駅となっています。静岡方面から入ってきた特急は、富士駅で向きを変えます。特急では珍しい「スイッチバック方式」です。また、特急車両としては非常に珍しい「両開き」のドアを装備、車両もグリーン車無しのわずか3両編成です。これは特急の「間合い運用」で、普通列車や通勤電車の増結にも使われるためです。その場合は乗車券や定期券だけで乗れるので、そういう運用の列車に乗れたらちょっとお得ですね。



列車名は、もちろん「富士川」に因んでいます。甲府盆地を「笛吹川」として流れ、静岡県側で名を変える「富士川」の眺めを楽しめるということでしょう。

私もこのカッコイイ特急に心惹かれましたが、青春18切符で乗るには、特急券だけでなく乗車券も買い直す必要があります、今回は「お見送り」で我慢しました。



特急を見送ったあと、私が乗る予定の甲府行普通列車が入ってきました。御殿場線で乗ったのと同じような車両です。かつては「特急ふじかわ」の車両は、時々東京駅でも見ることができました。東京-静岡を結んでいた「特急東海号」などに使われていたからです。しかし、この普通列車用の車両は東京ではまず見ることはできなかったし、今も見られません。



外観は御殿場線の車両と似ていますが、座席は少しちがいました。御殿場線のは座席の向きを自由に変えられましたが、身延線のは固定された向かい合わせのシートです。座り心地は身延線の車両のほうが良い気がしました。日曜日の2両編成ワンマン運転でしたが、乗車率は50%ぐらいで、座れない人はいませんでした。地元の人が半分ぐらい、あとはハイキングのグループや身延山参りの人が多かったです。おおむね短距離の利用が多く、終点の甲府まで通して乗りそうな「ツワモノ」は、私ぐらいに見えました。